

理事長挨拶



社団法人 大正琴協会理事長
海部 俊樹

陽春の気は動きはじめました。まさに、活気と躍動の季節の到来です。

会員、愛好者の皆さんには、平素は社団法人 大正琴協会の会務運営に一方ならぬご理解と、お力添えをいただき、心から感謝と御礼を申し上げます。

協会創立以来、皆さんには生涯学習の普及・振興と、大正琴音楽の地位及び音楽レベルの向上に取り組んでいただき、地域社会における学習活動にも積極的にご参加いただいておりますが、今年も一層のご活躍をご期待申し上げます。

ご承知のとおり、日本の長寿国は世界に冠たるものであり、高齢化社会から高齢社会への到達も目前にきております。今まで以上に、一人ひとりが健康で生きがいを感じていただける社会の構築が必要になってまいります。

“何時でも、何処でも、気軽に”弾ける大正琴は、加盟の流会派の合い言葉ですが、この10年間の歩みのなかで、理想とする音色の追求と、新たな技法の探求によって、専門の音楽家も驚嘆するレベルに達していることは、実に頼もしい話題であり、協会を設立した意義を感じているところであります。

「継続は力なり」と申します。それぞれが趣味として遊び、習得期間の長短はありますが、大勢の人々に感動を提供できる熟達した成果、達成感、宝石にも似た価値観と想像できますし、世の中の人々のためにも継続して頂くことを願ってやみません。

明るい話題の少ない時だけに悲観的になりがちですが、今が好循環へ転ずる始まりの時と位置付けて、一人ひとりが生き生きとした毎日を迎えられることをご期待申し上げます。

最後に、私ごとになりますが、干支6順目を元気に迎えました。羊は、めでたいとか、美しいに転じますが、会員、愛好者の皆さんも心うるわしく躍進されますようご祈念申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

第20回通常総会議事録

1. 日 時 平成14年12月4日(水)
開会 午後1時00分
閉会 午後1時50分

2. 場 所 大阪市淀川区西宮原一丁目3番35号
大阪ガーデンパレス

3. 出席状況 会員の総数 4,500名
出席会員数 4,109名(委任状含む)

4. 議事の概要

(1) 開会

定刻に、司会者の組織委員長奈須忠信常務理事が挨拶。企画委員長若間昌一常務理事が開会を宣言。

(2) 副理事長挨拶

副理事長加藤英也氏。

(3) 議長選出

司会者が、議長選出方法を議場に諮ったところ司会者一任の声あり。よって、副理事長加藤英也氏を本総会の議長としたい旨諮ったところ、全員一致をもって選出し、同氏は、これを了承し議長となり挨拶をした。議長は、事務局に出席状況の報告をさせた。議長は、正会員現在数の4分の3以上の出席があったので、本総会が成立した旨を述べた。

(4) 議事録署名人選出

議長が、議事に先立ち議事録署名人2名の選出について諮ったところ、議長一任の発言があり、全員異議なく賛成したので、議長は、理事平野芳男氏及び同北林篤氏を指名し、これを議場に諮ったところ、全員異議なく承認した。

被選任者らは、いずれもこれを承諾した。

5. 議事

第1号議案 平成14年度

収支予算執行状況報告に関する件
議長が、事務局長笹倉辰行氏に本件議案の説明を求めた。

笹倉辰行氏は、予め配布した資料をもとに収支予算執行状況(平成14年4月1日から同年9月30日まで)について詳しく説明した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、本件を了した。

第2号議案 平成14年度

収支補正予算案承認に関する件
議長が、事務局長笹倉辰行氏に本件議案の説明を求めた。

笹倉辰行氏は、予め配布した資料をもとに平成14年度収支補正予算案を詳しく説明し

た。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を諮ったところ、満場異義なく原案どおり承認可決した。

第3号議案 平成15年度事業計画案承認に関する件
議長が、事業委員長御室泰常務理事に本件議案の説明を求めた。

御室泰氏は、予め配布した資料をもとに平成15年度事業計画案を詳しく説明した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を議場に諮ったところ、満場異義なく原案どおり承認可決した。

第4号議案 平成15年度収支予算案承認に関する件
議長が、事務局長笹倉辰行氏に本件議案の説明を求めた。

笹倉辰行氏は、予め配布した資料をもとに平成15年度収支予算案を詳しく説明した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を議場に諮ったところ、満場異義なく原案どおり承認可決した。

6. 閉会

以上をもって、社団法人大正琴協会第20回通常総会の議案の全部を終了したので、議長は、議場にその協力を謝し、降壇した。そして、総務委員長北林豊常務理事が開会を宣した。

上記決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は次に署名押印する。

平成14年12月4日
社団法人大正琴協会 通常総会

議 長	加藤 英也	印
議事録署名人	平野 芳男	印
同	北林 篤	印

平成15年度事業計画（主要事業）

1. 生涯学習に関する普及・啓発活動

(1) 全国生涯学習フェスティバル大正琴合同演奏会

- 日時：平成15年11月29日（土）
- 場所：沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1
- 趣旨：人々の生涯学習に対する意欲を高めるとともに、人々の学習活動への参加を促進するために開催する。

(2) 体験学習・見本市への参加

- 日時：平成15年11月27日（木）～同年12月1日（月）
- 場所：沖縄コンベンションセンター及び周辺
- 趣旨：大正琴を通して生涯学習の普及・振興を図るため、期間中は主幹担当の琴伝流の指導者によるデモ演奏をしながら、来訪する人々は大正琴の演奏・技法を体験していただくとともに、協会に加盟している流会派の楽器の展示・PRをする。

2. 生涯学習に関する各種講座、講演会等の開催

(1) 協会主催の講座、講演会（中央事業）

教養講座または、文化講演会を年に2回開催し、学習機会の提供を図る。

(2) 地域における各種講座、講演会の開催等への援助（地方事業への助成）

都道府県レベルの大正琴関係団体、及び愛好者グループ等が、生涯学習に関する講座、講演会等を開催した場合に応分の費用を助成する。

3. 大正琴演奏会の開催（中央事業）

(1) 定期演奏会

大正琴愛好者が日頃の練習の成果を発表し、演奏技術、音楽レベルの向上を図るとともに、大正琴の普及啓発を図る。

- 日時：平成16年2月7日（土）～2月8日（金）
- 場所：アクトシティ浜松 大ホール

平成15年収支予算書

1. 収入の部

(1) 基本財産運用収入	50,000円
(2) 会費・入会金収入	16,500,000円
(3) 事業収支	25,330,000円
<内訳>	
生涯学習フェスティバル	5,180,000円
定期演奏会	20,150,000円
(4) 補助金収入	10,989,000円
(5) 雑収入	500,000円
(5) 出版物収入	0円

当期収入合計	53,369,000円
前期収支繰越差額	5,361,143円
収入合計	58,730,143円

1. 支出の部

(1) 事業費	39,866,000円
(2) 管理費	16,460,000円
(3) 予備費	0円

当期支出合計	56,326,000円
当期収支差額	-2,957,000円
次期繰越収支差額	2,404,143円

トピックス

社団法人 大正琴協会 創立10周年記念行事 フォーエバーグリーン・緑を永遠に マレーシアにて植樹を行いました。

私たちがこよなく愛用している大正琴は、その主な材料（木材）を海外から輸入して作られています。マホガニー、ローズウッド、スプルース等々です。

今、世界的にも森林資源の枯渇による環境の破壊が進んでいるといわれており、人類の生存にもかかわる問題として国際的な注目を集めています。

そこで、社団法人大正琴協会は「緑の再生」に少しでもお役に立てばとの願いを込め、大正琴協会10周年記念事業として平成14年10月30日にマレーシアにおいて5流会派代表による植樹祭を行いました。

この植樹祭は、財団法人オイスカ・マレーシアが推進している「子供の森計画」に協賛する形でクアラルンプール郊外に位置する第2セナワン中学校の全面のご協力のもと、マホガニーの木50本が植えられました。気温27度、午後のスコールの合間を縫っての植樹となりましたが、40年後には大きな木に成長することを願って1本1本心をこめて植えてまいりました。

植樹祭のあと、大正琴による両国歌並びに日本の曲が演奏され、また、セナワン中学校の生徒さんによる踊りも披露されるなど、両国の親善交流を深めるイベントともなりました。また、オイスカ・マレーシア「子供の森計画」に対し植樹を含めた総額100万円を贈呈いたしました。

これもひとえに、会員皆様方の協会に対する日頃のご支援、ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。



社団法人 大正琴協会
マレーシア植樹祭団長
加藤 英也

第14回全国生涯学習フェスティバル 大正琴合同演奏会終了報告

さわやかな秋日和の中、平成14年10月13日(日)石川県金沢市厚生年金会館において第14回生涯学習フェスティバル大正琴合同演奏会を盛大に開催することができました。

北陸地方では、2回目(数年前富山県)ということもあり、生涯学習フェスティバルに対して、皆様のご理解をいただき、石川県並びに隣接県は無論のこと、遠くは大阪、愛知県、長野県、滋賀県からもご出演をいただきました。特に、地元石川県の大正琴愛好者の皆様には格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

加賀100万石の城下町、日本三大庭園の一つ兼六園、金沢城があり、自由連峰が一望出来、友禅流しで有名な二つの流れ、「浅野川・屎川」が流れる風光明媚な素晴らしい地での開催ということもあり、32グループ、1535名の出場をいただきました。主催担当者としてこの上もない喜びであります。

最後に、大正琴合同演奏会が、怪我人もなく、盛大に終了出来ましたことをご報告申し上げますとともに、開催にあたりご支援、ご協力をいただいた関係者の皆さんに心より感謝申し上げます報告に代えさせていただきます。

第14回「全国生涯学習フェスティバル」
大正琴合同演奏会 実行委員長

琴生流 会長 加藤 英也



大正琴の歴史

◇今から91年前に誕生

大正琴は今から91年前の1912年、名古屋市長瀬の人、通称「森田吾郎」本名「川口仁三郎」により考案されました。日本古来の二弦琴に森田が異国の街角で見つけたレミントンのタイプライターのキーマニズムを組み合わせることで、現代の大正琴の原型が誕生したといわれています。

邦楽器と西洋的機構を組み合わせたことで、大正琴は洋楽器か邦楽器か、楽器分類上、よく話題になります。強いて言えば「邦楽器風、洋楽器」ということになろうかと思いますが、そんなことよりも美しい音色と数字譜が楽器愛好者の心を捉え、時あたかも大正ロマン華やかなりし頃と重なり、女性の趣味として大正琴は大いにもてはやされました。当時は大正琴第一次ブームの時代ともいわれています。

しかし、昭和10年代後半から20年代になると、大正琴の人気は急速に衰え「大正琴ブランク時代」を迎えることとなります。

この間は、戦争という社会的状況も大いに関係していたものと思われます。優雅に大正琴を弾いている場合ではなくなったのです。

◇昭和30年、再び大正琴が

昭和30年代に入り、戦後世の中がようやく平静を取り戻した頃、大正琴は再び脚光を浴びてまいります。それは、大正時代の第一次ブームとはやや異なり、独奏楽器としてだけでなく、集団で演奏する合奏楽器としての第二次ブームの到来と言っているのではないのでしょうか。それには、目覚ましい楽器の改良や音楽ホールの大規模化が無縁ではないと思います。

そして、そのブームに拍車をかけた人物が登場します。古賀政男です。

古賀は、マンドリンやギター、そしてヴァイオリンなどに興味を示す一方、大正琴にも関心を示し、それらの楽器を作曲等に活用していました。特に、マンドリンと大正琴は共通点が多く、古賀のイメージの中に重なる部分が多かったのではないかと想像されます。昭和34年に作曲された「人生劇場」のイントロ部分では大正琴を自ら演奏し、それは大正琴の音色が広く知られるキッカケともなりました。

◇生涯学習、余暇の時代を迎え

昭和40年、ユネスコが「生涯学習」という考え方を提唱し世界的な広がりを見せ始めました。わが国でも、昭和43年に、この考え方が具体化してまいりました。合わせて、長寿社会が急速に進み、余暇の過ごし方が人々の大きな関心事として浮上してまいりました。音楽を楽しむ人達が増加し、大正琴への興味、関心を示す愛好者が増えてまいりました。大正琴の第三次黄金時代の到来といえましょう。そこには、これまでになかった、生涯学習の考え方、学習者が指導者に、指導者が学習者の役割を演ずる相乗効果的なものが大正琴の普及につながったものと思われます。また、多くの流会派が生まれ、良い意味での競争原理、各流会派の努力が大正琴の発展に拍車をかけたといえましょう。

◇社団法人大正琴協会の設立

平成5年、わが国の主な流会派が大同団結する形で「社団法人大正琴協会」の設立を文部科学省に申請し認可されました。多くの愛好者の存在が国からも認められ、一つの楽器が公益法人としての地位を築き上げる画期的な段階を迎えることとなりました。各流会派の特長や自主性を守りながら、国が提唱する「生涯学習」「生きる力」「地域文化の育成」に大正琴協会は努力してまいります。21世紀に羽ばたく新たな大正琴音楽を、会員の皆様方とともに造り上げていこうではありませんか。

講演会開催報告

平成14年度中央事業として下記の講演会を開催いたしました。

期 日：平成14年12月4日（水）14時15分～

会 場：大阪ガーデンパレス

大阪市淀川区西宮原一丁目3番35号

講 師：山田 隆先生

三重大学講師・藍の会主催

演 題：「邦楽と洋楽の違い」

山田隆先生には平成11年3月協会主催の中央事業の一つであります「指導者研修会」で、ご講演をいただき、大変好評を博したので、大阪地区でのご要望にお応え致しました。



会員たより

琴心流 清水 和子

「“出会い”そして琴心流10周年」

出会いとは、一生を通し色々な人や出来事との出会いであり、それなくしては生活が成り立っていかないのではないのではないかと思います。私にとりましては、真に大正琴とは、離れられない出会いとなりました。二十年余りも御指導いただき生活の一部となりました。人生に夢を持ち心豊かに皆様を御指導させていただき、年をとるのも忘れてしまいそうな毎日を過ごしております。有意義に人と接するのには、申広く多くの出会を楽しみ、そして、自分に厳しく向上心を持ち人間形成をしなければと思っております。

ふくよかな夢 大正琴ではくくみて
楽しき日々の 心は青春

大正琴の大きさに、勇気づけられ謙さめられこれからの生活の活力にさせて参りたいと思っております。

今年は 琴心流 10周年を迎え、私達にとりまして記念すべきおめでたい年となりました。会長様、家元先生のためめめ努力と指導力が実られ、すばらしい中身の濃い10周年の思い出が、きざまれました。

夫婦して 琴の音広めし十年なる
我等門人の 光なりけむ

今後は、先輩先生の指導をもとに、小さな力を大きくして、“技と和”を持って、大正琴の発展の為に、期たいてゆく事が、私達の願だと思っております。

鶴舞いて 亀宝来山におめでたく
なお翔たきて 二十年重ねん

(社)大正琴協会主要事業予定

☆平成14年度指導者研修会(中央事業)

- 日 時 平成15年3月12日(水) 13時30分～15時00分
- 会 場 ホテルフロラシオン青山 孔雀の間
東京都港区南青山4丁目17番58号
TEL 03-3403-1541
- 講 師 山田 隆先生(三重大学講師)
- 演 題 「邦楽と洋楽の違い」

☆21回通常総会

- 日 時 平成15年6月4日(水) 13時00分～
- 会 場 名古屋ガーデンパレス
名古屋市中区錦3丁目11番13号

☆第15回全国生涯学習フェスティバル大正琴合同演奏会

- 日 時 平成15年11月29日(土)
- 会 場 沖縄コンベンションセンター劇場棟(1,709席)
宜野湾市真志喜4-3-1
TEL 098-898-3000

◎大勢のご参加をご期待申し上げます。

☆第22回通常総会

- 日 時 平成15年12月3日(水) 13時00分～
- 会 場 東京都内

☆第12回定期演奏会

- 日 時 平成16年2月7日(土)～同年2月8日(日)の2日間
- 会 場 アクトシティ浜松 大ホール(2,366席)
浜松市板屋町111-1

◎大勢のご参加をご期待申し上げます。

編集後記

年が改まるたびに、今年こそはと、夢、希望で胸を膨らませますが、途中で萎んでいることに気づかずに一年が終わってしまいます。

長い人生です。思い通りにいかなくても焦らず時期を待つ平常心と、窮したことをチャンスと心得えて、ばん回の好機に転じたいものです。

世界から注目されている日本の高齢化社会のメンバーに入って数年になります。

先々のことよりも、「日々是好日」に努めています。

干支の羊は、よい、めでたい、うるわしいなどの合わせ文字にもなっています。羊頭句肉のような内実の伴わない生き方を避け、めでたい年になるように頑張らしましょう。

担当の不手際で20号の発行が遅れ、皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。心からお詫び申し上げます。